

全長約25センチ、全身を覆う真っ白な羽が美しいカンムリシロムク。インドネシアのバリ島に生息するムクドリ科の鳥だ。だが近年、森林伐採などによる生息環境の悪化や乱獲が原因で野生生息数は10羽程度に減少、絶滅の危機にひんしている。

1976年、カンムリシロムクをインドネシアから輸入して飼育し、79年に繁殖に成功した横浜市は、2003年、急減するカンムリシロムクを救おうと、インドネシア林業省と「カンムリシロムク野生復帰計画」¹を開始。現在、約110羽を飼育する横浜市環境創造局繁殖センター²が、これまでふ化した親鳥をバリの繁殖施設などに「帰国」させ、施設内のほかの個体と繁殖させている。

04年からはJICAの草の根技術協力事業として本格的な野生復帰計画に乗り出し、専門家派遣とインドネシア人研修員の受け入れを軸にした技術指導を実施中だ。基本的な飼育技術のほか、近親交配によって弱い個体が生まれないよう血統管理方法などを指導している。また、鳥を守るには生息環

Close Up!

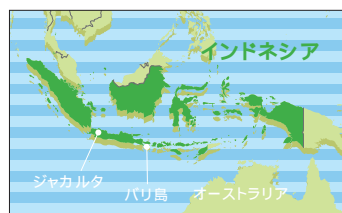
26

ジャイカのアシあと

[インドネシア]

カンムリシロムクをふるさとの森へ

バリ島に生息する美しい鳥カンムリシロムクを絶滅の危機から救おうと、神奈川県横浜市とJICAが協力して保護活動に取り組んでいる。



境改善に向けた人々の意識向上も必要だ。そのため、日本人専門家らが、地域の学校などに呼び掛けて緑化活動を続け、生息環境の改善を図っている。

「現地の人々と協力してやっていく姿勢を心掛けています」と語るのは同センターの市川典良所長。「80年代に欧米の動物園や研究機関が保護活動を行っていたが、現地の人々との協力関係がうまく築けなかったためか成功には至らなかった」。そうした反省から、子どももから大人まで多くの人を巻き込み、自然を守る気持ちははくむ保護活動を目指している。

05年8月にインドネシアの林業省や環境NGO、動物園の関係者が設立したカンムリシロムク保護協会は活発な保護活動を行っており、将来、現地主導で活動を続けていくめどが立っている。両国による取り組みは現地の新聞でも報道され、「自分たちで野生動物を守る」との声も高まっている。

¹ 2003年から2010年までに横浜市から100羽のカンムリシロムクを送る計画
² 07年10月現在、50羽を達成した。

² 1999年、希少動物の繁殖や研究を目的に横浜市立よこはま動物園の敷地に開設された。